

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	渋谷区障害者福祉センター代々木の杜		
○保護者評価実施期間	令和7年9月2日		～ 令和7年10月4日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	63	(回答者数) 53
○従業者評価実施期間	令和7年9月2日		～ 令和7年10月4日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職(心理、ST、OT)が常勤であり、子どもの発達支援を多面的に評価、指導することができる	・子どもの発達の状況に応じて、専門職の個別評価を受ける機会を設定し、日々の活動や生活に反映できるように職員・保護者にフィードバックしている。 ・1年～1年半に一回、発達検査を実施し専門職(心理)と保護者が話をする時間を確保している。	・子どもの評価から個別支援計画の目標設定をする際にも、専門職の評価の視点を取り入れ、子どものニーズに合った療育内容を提供できるようにする。
2	子育て支援としての保護者支援に力を入れている	・保護者会、茶話会、先輩保護者との交流会などを年間として計画的に実施している。 ・ペアレントトレーニング、ペアレントプログラムなど保護者が子どもとの具体的な関わり方について学び、考える機会を提供している。	・保護者会等の開催時期やテーマについて、保護者のニーズを整理し、より多くの保護者に参加してもらえる内容にする。
3	日常生活動作の指導を丁寧に積み上げ、将来的な自立・自律への基本を育てる	・給食の提供により、食べられる食材が増える、食器を持って食べる等、食事指導の幅が広がっている。 ・それぞれのペースに合わせて、日常生活動作をスモールステップで積み上げている。	・作業療法士による生活動作についての評価をグループ療育の中でいかしていく。 ・家庭や園との連携を密にして同じステップで積み上げられるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育園との並行登園の利用児も多く、利用日数が減っている	・利用児のほとんどが両親ともに就労されているため、仕事を休んで事業所に通うことが難しい。	・グループ担当者による保育園等への訪園の機会を増やし、園との連携を強化する。 ・家庭での関わり方など保護者との連携についてもこれまで以上に意識して行っていく。
2	保護者と直接顔を合わせて話す機会が減っている	・バス送迎により4,5歳児は単独登園となったため、自主登園や親子登園の時のように顔を合わせる機会が減っている。 ・就労されている保護者と面談の時間を調整することも難しい時がある。	・個別指導の時間や親子登園日で保護者と話す時間を意識的に作り、保護者の困り感を聴き取る。 ・保護者が来て話をしてよかった、聞いてよかったと感じられる保護者会のテーマ設定を工夫する。 ・リモートでの面談についても検討していく。
3	保護者支援の協力者であるペアレントメンターの養成や活動についての運営が軌道にのりきれていない	・年度の後半から養成事業が具体的に進んだ。研修会についても実施のめどは立ってきたが、「ペアレントメンター」自体が関係機関にもまだ理解が広がっていない。	・研修会の講演に関係機関の方に参加してもらう。 ・当事者である保護者向けに「ペアレントメンターの活動」について話をする機会を作り、つながりを広げていく。